

Non Profit Organization  
NARA FORUM21

# naraなら

## 今年度の事業決まる 談山神社で総会開催

NPO法人奈良21世紀フォーラムの今年度の通常総会は平成十四年五月四日午前十時半から新緑の奈良県桜井市談山神社で開催。平成十三年度の事業と収支を満場一致で承認した後、今年度の事業計画と収支計画を議決し役員を再選した。

冒頭、議長の石橋毅一理事長は次のように挨拶。

「この一年間を通じて、しつかり形になったのは、本日ご披露する「万葉けまり」であると思います。古代の復元といえは良いのか、再現と呼べばいいのか、楽しんで遊べるようにいささか古式色も残した新スポーツとして今年度は全国の社寺等で普及してみたい。その他、吉野川上流で公費で買い上げられた原生林をどのように保護利用するか、また大和の伝統食保存の活動、昨年は春日大社の「中旬の献」という貴重な料理を頂いたが、今年は東大寺の結解料理など賞味できればと思っています。さらに奈良町の年中行事の記録保存も続けてまいりたいと考えていますが、いかにせん内外とも財政難で思うようにできなかったのが残念です。今年もトステイの国際コンクール日本予選大会に対しても微力ながら支援してまいりたいと考えていますので皆様のご支援、会員の増強にさらにご協力を賜りたいと存じます。」

総会の後、当フォーラムの理事でもある和田萃京都教育大学教授が「飛鳥と新羅の蹴鞠」と題して記念

講演。ここ談山神社にまつる藤原鎌足と中大兄皇子が蹴鞠を通じて知り合ったという日本書紀のあの有名なエピソードと同じような話が朝鮮半島の新羅の史書や史料にもあることを両国の文献を比較検証しながら指摘。やはり飛鳥寺で行われた蹴鞠が中国から朝鮮半島を通じて、大和に伝来した可能性があり、さらに新羅の王子がその後、飛鳥にいられているので、ひよっとすると中大兄皇子らと蹴鞠をした可能性も示唆。まことワールドカップ日韓開催の年にふさわしいというより、千三百五十八年の歳月を超えた奇跡のような符合に會員各位も驚いた。



談山神社での総会風景と円内写真は和田萃教授

